



多様化する課題に挑むモアネットの未来へ

ち 遅
り 力
よ 裕 (モアネット運営委員)

最近、生活課題が多様化し、複雑化する中で、外国人ルーツを持つ方々や外国人の介護問題、孤立や孤独の問題が重要な社会課題として注目されています。このような課題が浮き彫りになる前から、約20年前に民生委員制度の不備を補い、外国人高齢者や障害者を支援する活動を地道に展開してきたのが、モアネットという団体です。

モアネットは、地域における外国人高齢者・障害者の支援に取り組み、これまで多くの困難を乗り越えてきました。しかし、近年ではその活動が行き詰まりつつあるという現実に直面しています。目の前の問題に対して、関係機関と連携し尽力し続けていますが、それだけでは解決が難しい場面もあります。そのため、現在の支援のネットワークでは不十分であり、教育機関や司法、地域など、さらに多くの分野への広がりが必要だと感じています。

当時からボランティアに活動していた多文化福祉委員たちは、困っていた外国人たちの心に寄り添い、多くのケースで支援の効果を上げてきました。しかし、問題解決には、ボランティアな市民活動だけでは限界があり、制度と市民活動の両輪が必要です。このような支援サー

ビスが持続的に展開するためには、制度的なバックボーンや財政的な後押しも不可欠だと考えます。

モアネットは、長年の実践を通じて地域に信頼され、その活動の中で社会資源（ネットワーク）を築いてきました。また、多文化福祉委員のような人材の育成にも積極的に取り組んできた経験があります。このような経験を活かしながら、今後はモアネット (More Net) という名称にふさわしい、より細かく網の目のようなネットワークを築いていくことが可能ではないでしょうか。既存の医療・福祉・同胞支援団体とのネットワークを大切にしつつ、行政・教育・司法などの機関との連携を図り、地域社会全体でのソーシャルサポートネットワークを強化していくことは、外国人高齢者や障害者への支援をさらに広げ、充実させるための鍵となるでしょう。

モアネットは、約20年にわたる模索と歩みを重ねてきました。日本において外国人の数が増加する中で、今後の社会に向けて、多様性への尊重、支え合いの文化、そして愛と温もりを伝承していくという重要な役割を担っていると感じています。

京都モアネット 2023年度 事業報告

1. 多文化福祉委員派遣事業

27人の多文化福祉委員が在日外国人高齢者や障がいのある人49人に対して、885件の生活支援活動を行いました。電話で相談を受けて情報提供するほか、関係機関からの依頼に応じて自宅を訪問し、安否確認や、簡単な日本語でのお話や傾聴活動、生き甲斐支援などを行いました。定期訪問が必要な場合や孤立しがちな方には、介護保険事業所やその他の関係機関と連携しながら傾聴・見守りを行いました。日本語会話ができない/できなくなった/困難な外国人高齢者としんどさを抱えている人たちについて、医療・福祉・教育・住宅関係者等との間の通訳、行政手続きの同行、母語での傾聴を行いました。

2. 多文化福祉委員の研修・充実化に向けて

活動している多文化福祉委員が集まって毎月「お茶会」を行い、活動報告・情報交換をしました。6月には、福祉委員が関わっている対象者が誰とつながっているかを多角的に知るためのエコマップづくりの学習会を行いました。

3. 外国籍住民理解に向けての啓発活動

FacebookやXを活用し、多文化ルーツの人たちの抱えている課題と共生の在り方、活動内容とボランティア募集について若い世代に向けて発信しました。

4. 他団体との連携

京都市国際交流協会の「きょうと多文化支援ネットワーク」に事務局メンバーが参加し、活動内容や情報交換を行いました。2月に多文化支援ネットワーク主催のグローバルセッションを行い、障害のある外国ルーツの人の課題と支援について、モアネットと連携している京都市障がい者地域生活支援センターらくとうに話題提供してもらい、グループワークを行いました。

京都モアネット 検索

きょうと多文化支援ネットワーク 検索

でFacebook、ホームページが出ます

第1回 京都外国ルーツ高齢者問題に関する 支援ネットワーク交流会 (3月8日、於：龍谷大学)

2025年1月、京都モアネットは外国ルーツの高齢者支援ネットワーク構築を目的に、京都市内の高齢者介護に関わる事業所を対象としたWebアンケートを実施。京都市健康長寿のまち・京都推進室介護ケア推進課に協力を得て4777カ所に送信、164カ所から回答を得ました。そしてアンケートに回答していただいた事業所と、3月2日に行われたきょうと多文化支援ネットワーク主催のグローバルセッション「超高齢化社会の中の多文化ケア」参加者に声をかけ、当日の交流会にはZOOM・現地合わせて41名が参加してくれました。高齢者支援事業所以外に、大学関係者、留学生、外国人材派遣会社、外国人支援団体、外国人高齢当事者など参加者は多方面にわたり、学びの深い会となりました。

1. 趣旨説明

(運営委員 阪口春彦)

全国的に外国ルーツの人たちが増える中、現在は福祉制度を十分に活用できる状況がありません。現場ではそれぞれの形で支援していますが、京都ではどんな成果や課題があるのか、どんな支援体制が必要なのかがはっきりしません。今回は第1回。高齢者に関わる団体と情報を共有し、今後の支援体制づくりの在り方を考えたいと思います。



阪口春彦さん

2. 第1回京都外国人高齢者支援についてのアンケート調査の結果報告 (運営委員 石川久仁子)



石川久仁子さん

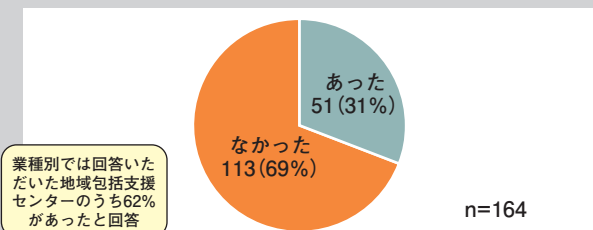
回答事業所の31%が相談を受けたと回答。地域包括支援センターでは62%との回答でした。

あったと回答した事業所の所在エリアは京都市内全区にあり、全ての区に外国人高齢者の生活相談が存在していることがわかりました。

相談者の国籍は朝鮮・韓国(22カ所)をはじめ、中国・台湾、アメリカ、フィリピン、ベトナムなど15か国にのぼりました。

「困った内容」については、①言葉・コミュニケーション、②文化習慣・価値観・宗教のちがい、③福祉施策の制度理解の順でした。

外国人高齢者の生活課題等の相談がありましたか？

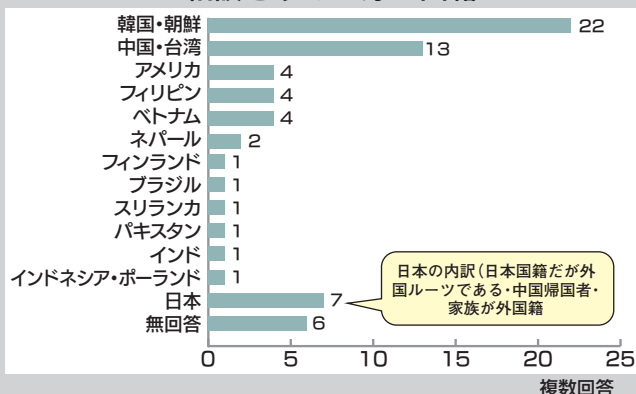


外国人高齢者からの相談があったと回答した事業所のエリア

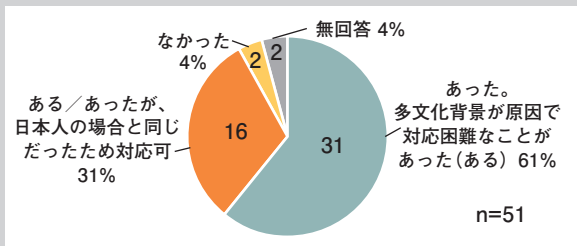
北区	3(16)	山科区	1(11)	西京区洛西支所	0(2)
上京区	3(9)	下京区	4(13)	伏見区	6(18)
左京区	4(14)	南区	6(13)	伏見区深草支所	5(5)
中京区	3(13)	右京区	6(20)	伏見区醍醐支所	1(4)
東山区	2(4)	西京区	7(21)	不明	0(1)

カッコ内は回答そのものがあつた事業所数

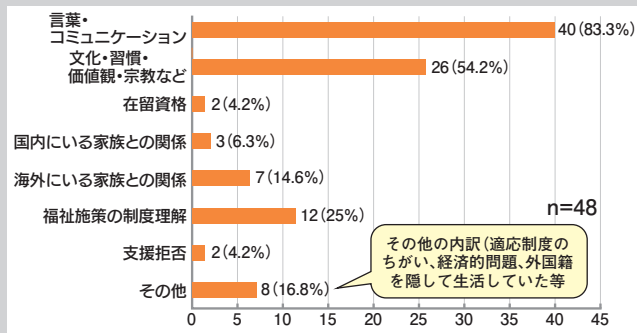
相談を受けた方の国籍



支援する中で困ったことはありました(あります)か？



どのようなことで困りましたか？



自由回答では「認知症になると日本語を忘れ母国語ができるためコミュニケーションがとれない。食習慣の違いによりデイサービスや配食が定着しない。日本語ができずサービス利用が難しい。」「介護保険等制度は外国人には珍しく、丁寧な説明が必要。」「独居の方の介護拒否や怪我や事故、認知症などによって地域(同胞)のコミュニティから外れていく。それにより**地域や同胞コミュニティから孤立**。」など、支援にあたっての多様な困難の現状が見られた一方、外国人高齢者本人が情報収集を試みたり、支援者がよりよい支援を目指して様々な試みをおこなっていることも明らかになりました。

3. 事例発表「コミュニケーション不足により支援が滞った事例」

(ケアプランwithブロッサム 佐藤裕子さん)

ほぼ寝たきりの男性高齢者と妻、息子の3人暮らし。最初に関係機関からもらった情報のうち、キーパーソンの家族の情報や家族の今後の意向が事実と異なっていました。また妻の「字が読めない」



佐藤裕子さん

理由を、本人から外国籍であることを伝えてもらえず、引き継いだ事業所から聞いて理解できました。外国ルーツの人の支援は「困難事例」ではなく支援に時間がかかります。言語の問題よりも信頼していただけるような支援が必要で、この方と家族についても信頼関係を築くことによって、経済面や今後の支援体制など家族それぞれが困っていることについて一緒に考えることができました。ただ、本人から発信をしてくれないとこちらが思い違いをしたり、外国籍であることを隠している人に対してどんな関わりをすればいいかわからず、こちら側のコミュニケーション力が重要です。一方、家族が多国籍である場合でも家族間のコミュニケーションがスムーズであれば支援において困りませんでした。

4. モアネットより報告「支援内容と活動で工夫した点」(事務局 村木美都子)



事務局 村木美都子

①言葉(多言語)の問題への対応……大学や民族団体などいろんなところに問い合わせさせて母語がわかる人と一緒に訪問して話を聞く。相手の使いやすいツール(FB、カカオトークなど)を使い、ロー

マ字や、音声録音でやりとりする。わかりやすいシンプルな日本語で話をしたり専門機関との通訳や制度の説明をする。言葉が通じなくても、あなたを大事にしているという気持ちが伝われば受容されたり信頼関係が生まれます。

②文化や価値観のちがいを理解……急に怒ったりサービスを拒否する場合は本人の困っている内容や理由を聞き、時間をかけてサービスや地域の人的支援につなぎ、サービスが入らなくても見守り続けます。

③家族との関係を知る……本人の国内外の家族との関係性を聞き、医療機関から家族の同意を求められても家族への連絡を拒否した場合は、本人の意向を医療機関に伝えて理解を得ます。

④マイノリティの抱える課題に日本人が関わることは、日本社会でのすべての人が安心してすごせる社会づくりにつながります。



意見交換の様子

5. 参加者との意見交換

- 活動に対して活動資金が十分ない。資金を調達しよう。
- 難しい制度の説明に対する通訳…金銭面の説明は重要だが理解できるように簡潔に伝えることが大事。制度の説明を翻訳、それを再度日本語に直す作業を繰り返して簡単な日本語バージョンを作った、介護保険は理念や使えるサービス量をまず説明し、難しい制度は専門家に依頼することも必要。
- 介護保険料の支払い…いずれ帰国する予定の外国人は保険料を払わない人もいるが、永住する者にとっては介護保険が大事。
- つながりの重要性…外国人介護人材が介護専門知識の説明ができないか。外国人が渡日した際に介護制度について母語で説明し将来につなげたい。

- あるものの活用…京都市が介護保険制度の4か国語版があるが知られていない。タガログ語も入れてほしい。孤立やつながれる家族がいない外国人には元気うちから任意後見制度を活用してほしい。
- 外国人に対する専門職の支援のノウハウを蓄積する必要がある。

6. まとめ ～ 今後に向けてのキーワード ～

(共同代表 加藤博史)

- ①社会資源(サービス、サポート、支えあい)の統合化(インテグレート)。そのためのアクション(行動)とプラットフォーム(土台)づくり。
- ②ニーズ(外国人高齢当事者の居場所、出番、趣味、活動などQOL)を育てる。
- ③社会資源とニーズのマッチング、そのためのコンダクターの必要性。
- ④本人とキーパーソンのエンパワメント(本人が力を取り戻し自己決定できるための援助)。そのため、ビセラル(内臓)でコミュニケーションする。行ったり来たりしながらコミュニケーションをしつつ、当事者の思いを支援者が受容する。
- ⑤ちがいを活かすためにはコンフリクト(葛藤・衝突・矛盾)が大事。CCC(コミュニケーションをし、コンフリクトを経て、クリエイション:創造)でいきたい。個々の自分らしさが活かし合える地域づくりを目指したい。

第 19 回 総 会

2024年8月31日に京都市地域・多文化交流ネットワークサロンで第19回総会を行いました。当日は台風直撃の予報があり、急遽ZOOMを交えての会となりました。

2023年度の事業報告・会計報告、2024年度の事業計画・予算案を確認し、すべて承認されました。

話し合いの中で確認されたモアの役割として、①「意思形成支援」「意思表明支援」「意思実現支援」が挙げられました。どんな生活をしたいかを聞く、福祉サービスなどを拒否する意思も尊重する、モアが福祉サービスの直接調整役ではないため本人の意思を聞きやすい位置にいるなど、モアが本人にとって大事な役割を担っていることを確認しました。また、②「受容」的役

割を担っていること。継続的に関わり、本人の気持ちを受け止め続けることで信頼関係を構築する。能力ではなく本人との関係性が大事であることを確認しました。

今後の取り組みとして、①今年度末目標に、京都市内の高齢者支援機関のネットワーキングの場を作る、②20年間の活動記録のデータ整理と分析をする、③2022年度以降京都市からの助成金が活動費の半額助成になった。活動継続が厳しいため、整理したデータをもとに行政や議会、メディア等に活動継続の必要性を訴える、④2025年3月の20周年に向けて上記を踏まえた取り組みを計画する、などの意見が出ました。

淑子（スッチャ）オモニとモアネットとの出会い

故郷の家・ケアハウス京都 KT

現在、故郷の家・ケアハウス京都で暮らす金淑子オモニは1933年に日本で生まれ結婚後宇治市ウトロの地に住みながら苦労して4人のお子様を育て上げ体調を崩されるまで頑張っておられた在日コリアン二世です。

故郷の家・ケアハウス京都へは2024年7月に入居されました。入居後間もないころは故郷の家での生活に少しでも慣れて頂きたいという思いもあって故郷の家の中や東九条近辺をよく散歩しました。散歩しながらオモニは日本に来て初めて住んだ舞鶴の話や結婚生活、子育ての反省等々たくさんのお話を伺いました。そんなある日私が「故郷の家の生活はどうですか？ここでどんなふうに暮らしたいですか？」と尋ねると「ここはみんな親切にしてくれるしええけど話しする人があんまりおらん。ウトロのこととか喋れる人がいたらええなあ」と少し寂しそうなおっしゃいました。たしかに故郷の家での生活は衣食住には不自由しないし介護スタッフの声かけや関りもあります。しかしそのような生活はともすれば与えられるだけの生活であり自身が自らの体験や意見を能動的に語り活動するという生活ではない側面も持っています。淑子オモニはそんな生活に少し物足りなさを感じ「もっと自分のことを話したいし自分の話に耳を傾けて欲しい」と思っておられるのではないかと。

そんな淑子オモニとのやりとりを通して思い出したのがモアネットの活動でした。早速村木さんに連絡をとり「ウトロに以前住んでいたことのあるオモニがウ

トロの話がしたいとおっしゃっているのだけれど傾聴ボランティアに入って頂けませんか」とお願いすると快く引き受けて下さり今では木曜日の淑子オモニの日課として定着しています。ボランティアには村木さんや南さんに加え若い学生さんたちも来て下さり皆さんに「ソンセンニム！ソンセンニム！（先生）」と呼ばれて淑子オモニもこの時ばかりはご満悦の様子です。「こんな私の苦労話ばかりを若い人が一生懸命聞いてくれる」と喜んでおられます。淑子オモニの話はもちろん苦労話が多いのですが単なる苦労話ではなく日本の理不尽な差別や抑圧に対して凜として負けずに生きてこられたたくましいオモニの存在を感じることができます。

淑子オモニがモアネットの方々と過ごす時間は普段の故郷の家スタッフの支援に加え自身のアイデンティティを確認できる場でもあり世代を超えた交流の場としても大切な時間になっています。



金淑子オモニと多文化福祉委員

●多文化福祉委員～一緒に活動してみませんか？

外国にルーツのある高齢者や障がいのある方を対象に、関係機関や家族、ご本人からのご相談に応じて活動を行います。文化的背景がちがうため、日本の制度が分からなかったり、難しい日本語が理解できないため生活に困ることがあります。外国語ができなくてもOK。日本語で会話ができる方も多くおられます。

★交通費程度の活動費を支給できます。

★支援現場に行ってみ学/体験し、登録の上、必要時に活動をします。

●活動内容

- ①傾聴/話し相手：来所や自宅にてゆっくりお話を伺います。
- ②既存の制度やサービスでまかなえない部分の支援：郵便物の代読・説明、病院や役所などの手続き同行、手続き代行など
- ③通訳：医療機関や役所等で、ご本人の意思や思いを通訳し、安心して利用できるようお手伝いします。

★文化的背景がちがっても、自分らしく
生きることのできる生活を応援します



ホームページ



Facebook

2023年度支援内容

福祉紹介	生活保護	1	
	障害者福祉	3	
	その他の保健福祉・居住・法的サービス	3	
	小計	7	
相談・傾聴内容	安否確認	739	
	生活関係	659	
	家族関係	225	
	人間関係	98	
	生きがい相談（趣味活動）	185	
	精神面	139	
	経済面	31	
	言語・コミュニケーション関係	40	
	民族文化・歴史等	68	
	健康（病気・体調）	590	
	栄養食事関連	133	
	その他	8	
	小計	2915	
	関係機関との連絡調整	福祉事務所	9
役所 その他（保健センター・健康保険関係等）		10	
介護保険関係		97	
障害福祉関係		230	
医療関係		41	
家族		136	
その他（ライフライン・業者・家族・近隣住民等）		199	
小計		722	
直接対応	外出同行	22	
	通訳（医療・行政・ライフライン等）	34	
	代筆、代理支援	8	
	家事援助	7	
	身体介護	35	
	生活支援（制度の説明、生活指導など）	83	
	小計	189	
合計		3833	
2023年度	対象者	49	
	活動した福祉委員	27	
	活動件数	885	
	のべ支援内容	3833	
対象者のルーツ			
韓国・朝鮮	43	ベトナム	1
アメリカ	1	フィンランド	1
フィリピン	1	タイ	1
ルーマニア	1	計	49

京都外国人高齢者・障害者
生活支援ネットワーク・モア収支報告書

(2023年4月～2024年3月) (単位：円)

科目	2023 決算	
1. 収入		
京都市助成金	941,566	
賛助寄付金	679,300	
会費	31,000	
預金利息	21	
雑収入	0	
当期収入合計 (A)		1,651,887
2. 支出		
1) 福祉委員派遣事業に係る費用		
・報酬費	440,500	
・連絡調整費	217,500	
・上記に関する交通費	85,030	
・通信費	40,109	
・事務費	11,957	
・賃借料	600,000	
・雑費	0	
2) 福祉委員研修		1,395,096
・報酬費	232,900	
・交通費	0	
・事務費	22,837	
3) 福祉委員募集		255,737
・報酬費	107,780	
・交通費	3,660	
・事務費	98,780	
・通信費	22,080	
4) ネットワーク強化		232,300
・報酬費	0	
・事務費	0	
・交通費	0	
・雑費	0	
		0
当期支出合計 (B)		1,883,133
当期収支差額 (A) - (B)		▲ 231,246
前期繰越差額		283,048
次期繰越額		51,802

編集後記

3月8日のネットワーク交流会はとても刺激的でした。外国人介護人材が通訳してくれたらなあと考えていたら、留学生がまさにその意見を言ってくれ、人材派遣会社からは連携したいとお言葉をいただきました。「ここで生きたい」ために応援が必要な場合、その人を中心にさまざまな人や機関がつながることが必要です。そしてつながった人が互いに顔の見える関係になると、たくさんの価値観の出会いによってそれぞれの人生もより豊かになります。ネットワークづくり、一緒に始めませんか。興味のある方、是非ご連絡ください。

京都外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワーク「モア」（京都モアネット）

〒601-8022 京都市南区東九条北松ノ木町12 NPO法人エルファ内

TEL 075-681-2721 / FAX 075-693-2555 E-mail kyotomorenet@yahoo.co.jp

郵便振替口座：00990-4-314429

加入者名：京都外国人高齢者障害者生活支援ネットモア

♥支援カンパよろしくお願ひします♥

